

確かな問題意識をもたせての説明文の読解指導

—— 説明文「春の祭り」の実践から ——

足利市立相生小学校 大槻直佑

1 はじめに

今まで行なってきた自分自身の読解指導をふり返ってみると、説明的文章の場合には、文学的文章と比較して、あまりに分析的・技能中心であった。それは、段落のための段落指導、要点のための要点指導であって、話題内容を無視したものであった。これでは、たとい、児童の実態を把握し、教材の特質をとらえていたとしても、「読みの目的」からはそれたものである。児童にとっても、興味のない学習であったにちがいない。

このような反省から、児童が興味を持って、説明文の読解学習をするためには、指導にあたる側では、技能を重視すると同時に、話題内容を重視し、そのからみ合いの上に立った読解指導をせねばならないと考えられる。そこで、次のような点に留意し、説明文「春の祭り」（光村・3年下）の実践にはいった。

- 〈導入段階〉 ○ 題名・冒頭部分のみを深く読みとらせ、話題内容に対する問題意識を持たせる。
- 〈通読段階〉 ○ 話題内容に対する問題意識をもとに、その問題の解決を意識化させ、全文通読をさせる。
- 〈精読段階〉 ○ 要点をとらえるために、キー・センテンスやキー・ワードをおさえさせたり、段落から段落への展開をとらえさせる場合も、題名・冒頭部分での問題意識を持続させ、その問題の解決のためであることを意識させる。
 - 要点に特に深い関係のある語句や文をとらえると同時に、その連鎖関係からひとつの段落が、前の段落をどのように展開させているかに気づかせ、文章を動的・線条的なものとしてとらえさせる。

（注 文中「展開」ということばがあるが、これは、「あるものが他のものを生み出すことであり、それはあるものが他のものを生み出す可能性を持っていることであり、生み出されたものについて言えば、それは、あるものの拡充であり、完成である。」という、「時枝誠記・文章研究序説」の概念規定による。）

- 〈まとめ段階〉 ○ 文章の流れの中で、話題内容を考えながら（問題意識）読み通させる。

2 教材について

題名どおり、春の祭りや行事について書かれたものである。なかでも、「ひな祭り」については、全体の3分の1をしめている。これは、3年生という発達段階や、生活経験との関係を考慮し、興味を持って学習できるよう配慮したものであろう。

しかし、書かれた内容と題名とを比較したとき、ひとつの疑問が生ずる。それは、冒頭の文におい

て、「春が近づいてくると、楽しい祭りやいろいろな行事が始まります。」と、「祭り」と「行事」を並列の助詞『や』で結んでいるが、いったい、何が「祭り」で、何が「行事」なのかが不明である。

たとえば、「ひな祭り」の部分についてみると、「ひな祭りには、……。女の子どもたちにとって、……。楽しい行事でしょう。」「ひな祭りの行事は、大むかしから……。」「というように、「行事」と、はっきりいつている。「立春」や「節分」も祭りというよりは、民族的行事と考えたほうがよいように思う。「春分の日」についても同様である。

このように考えると、冒頭でのべている「祭り」や「行事」と、題名の「春の祭り」との間に矛盾が生ずる。

ところで、教材の最後（光村3年下・P87）にある「てびき」をみると、つぎのように書かれてある。

- てびき 1 この文章では、祭りのことがいくつ書いてあるか。それぞれ、くぎって読んでいこう。
2 それぞれの祭りについて、次のことを考えてみよう。

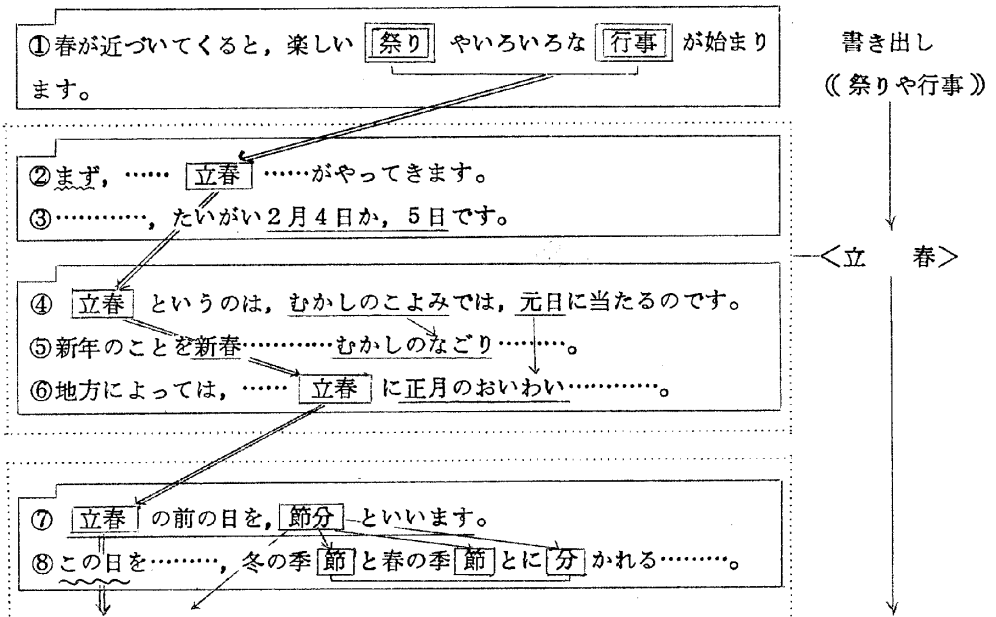
この「てびき」から推察すると、「立春」「節分」はもちろん「ひな祭り」の「行事」も祭りと考えているのである。おそらく「春分の日」も「祭り」であろう。

以上を、まとめて考えたとき、冒頭の「祭り」と「行事」を、並列の助詞『や』で区別させると、児童に混乱を起こさせる心配があるので、あえて、祭りと行事をひとつのものと考えさせたい。

なお、この文章は、段落から段落への展開が明確であり、自然描写をとり入れた段落が、展開の上で「橋渡し」の役目をするなど、動的・線条的な面の指導に適している。

また、定義的な文やむずかしい読みかえ漢字の多い点もこの文章の特徴であろう。

3 教材研究 —— 文章構成と連鎖関係を中心に ——



⑨ 節分 には、……………まめまきをします。

⑩ 「福は内……………」……………まめまきをします。

⑪ これには、……………いやなことは外へ……………しあわせを家の中へ……。

⑫ 節分 や 立春 がすぎると、

⑬

⑭ そうして、ひな祭り がやってきます。

⑮ ひな祭り は、3月3日です。

⑯ ひな祭り には、人形……………、ひしもちや白酒……………。

⑰ 女の子……………いちばん楽しい行事でしょう。

⑱ ひな祭り の行事は、大むかしからありました。

⑲ しかし、

⑳ 大むかしの人々は、……………ひとがた (人形) ………………。

㉑

㉒

㉓ そうして、……………

㉔ つまり、病気やさいなんから子どもを守ろうとしたのです。

㉕ このようなならわしがつたわって、次第に ひな祭り が多くの人々の間で行なわれるようになったといわれています。

㉖ そのうちに……………だんだんりっぱなひな人形が……………。

㉗ そうなると……………流すことはしなくなり……………。

㉘……………来年も、その次の年もかざる……………。

㉙ けれども、ひな祭り に、子どものしあわせをいのる親たちの気持ちがこめられていることには、変わりありません。

㉚ ひな祭り が過ぎると、……………。

㉛

㉜ そうして、春分の日 がやってきます。

㉝ 春分の日 には、

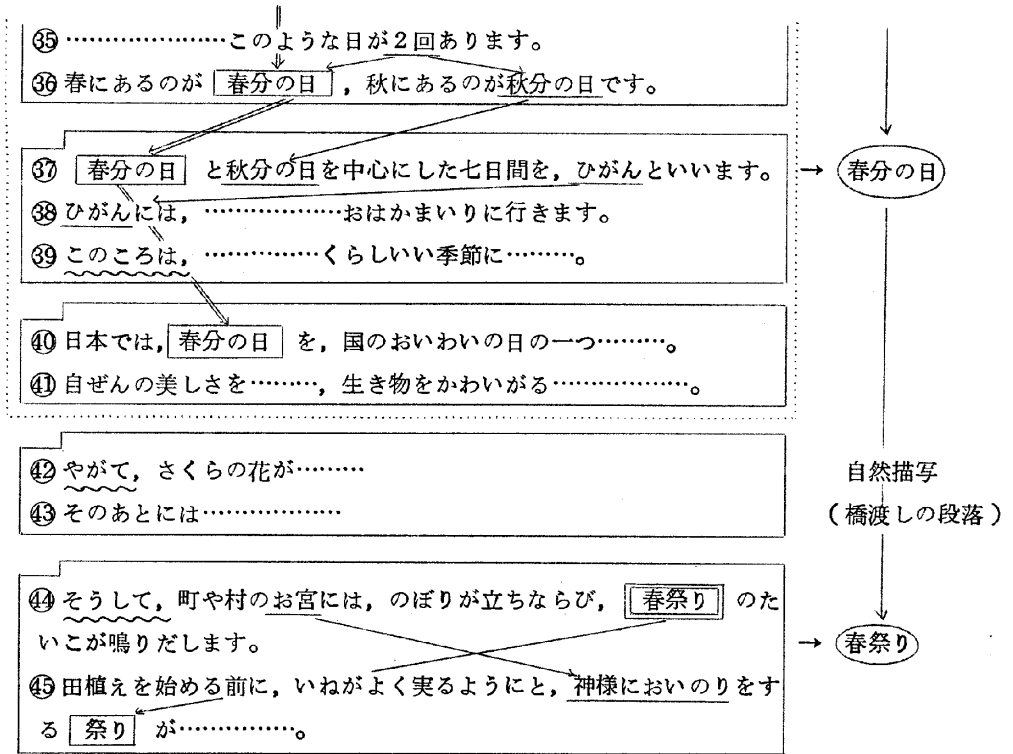
㉞ そうして

節分

自然描写
→ (橋渡しの段落)

ひな祭り

自然描写
→ (橋渡しの段落)



4 児童の実態は握 —— 事前テスト ——

(1) 文字・語句についてのテスト問題と、その結果 (調査人員 33名, S. 46.1)

国 語 テ ス ト (春の祭り) 3年3組 なまえ

1 次の漢字に読みがなをつけなさい。

1 祭り 2 行事 3 楽しい 4 立春 5 元日 6 新春 7 神社 8 福は内 9 家々 10 追う
 11 寒い 12 和らぐ 13 白酒 14 春先 15 人形 16 身代わり 17 守る 18 次第
 19 来年 20 氷 21 昼 22 暑さ 23 自ぜん 24 田植え 25 鳴る 26 実る
 27 神様 28 お宮 29 秋分 30 等しい

2 次の(ア・イ)はどちらが正しいですか。正しいと思うほうに○じるしをつけなさい。

1 (ア 近づく 2 (ア おいawaii 3 (ア しあわせ 4 (ア しづむ 5 (ア おおわれる
 イ 近づく イ おゆawaii イ しやわせ イ しづむ イ おうわれる

3 次のことばの意味にあてはまるものを下からえらんで、()の中にア・イ・ウで答えなさい。

1 さいなん() 2 そせん() 3 ならわし() 4 みたま()
 5 なごり()

ア 大きなまるいたまのこと。 イ 火事や地しんのように、人に害をあたえ、苦しませるで
きごと。 ウ たましいのこと。 エ たいへん親しそうなようす。 オ ものごとが
すぎさったあとで、まだそのありさまがのこっていること。 カ 自分の家で、今の代の人
よりむかしの人々。 キ ずっと前からそうするようになっていること。

テストの結果

1 漢字を読む (正答率 %)

新出・読みかえ漢字	正答率	新出・読みかえ漢字	正答率	新出・読みかえ漢字	正答率
1 祭り	85%	11 寒い	85%	21 昼	61%
2 行事	64%	12 和らぐ	0%	22 暑さ	88%
3 楽しい	85%	13 白酒	67%	23 自ぜん	37%
4 立春	37%	14 春先	55%	24 田植え	67%
5 元日	28%	15 人形	100%	25 鳴る	94%
6 新春	16%	16 身代わり	25%	26 実る	22%
7 神社	91%	17 守る	58%	27 神様	73%
8 福は内	88%	18 次第	0%	28 お宮	55%
9 家々	37%	19 来年	82%	29 秋分	16%
10 追う	67%	20 氷	70%	30 等しい	10%

2 ことばの正しい使い方 (正答率 %)

1 97%	2 73%	3 94%	4 85%	5 55%
-------	-------	-------	-------	-------

3 ことばの意味 (正答率 %) 完全正答 15%

1 さいなん	2 そせん	3 ならわし	4 みたま	5 なごり
91%	70%	61%	61%	34%

テスト結果から考えられること

漢字を読むテストでは、読みかえ漢字がかなりむずかしかったようだ。普通、新出漢字に力を入れがちであるが、読みかえ漢字の指導にも十分配慮する必要がある。とくに、80%以下の正答率を示したものには注意する必要がある。

なお、「おいおい」や「おおわれる」なども、正しく身につけていない児童がいる。また、「なごり」などは、「みたま」以上に理解していない点に注意する必要がある。

(2) 要点をとらえる力のテスト

(問題は、興水実監修 こくごのスキルブック 読解 3年 P47 だいじなところ より)

問題文〔1〕

- ①みなさんは、ガムが好きですか。
- ②日本でも、このごろは、ガムがたいへんなうれゆきで、たくさんの人がガムをかむようになってきました。
- ③ところが、これほどあいされるガムも、かんだかすがきものにつくと、とれなくてこまります。④ようふくやきものについて、こまっている人を見かけたこともあるでしょう。
- ⑤そういうことがないためには、どうすればよいでしょうか。
- ⑥それには、かんだガムをすてるときには、かならず紙につつんで、ごみばこへすてるようにすることです。

○この文しょうで、ガムをかむときのちゅういは、なんばんの文にでていますか。

正答率 70%
 誤答例 1の文 8%
 3の文 11%
 4の文 11%

問題文〔2〕

- ①みなさん、「なく虫」をかけて、なき声や、なくときのようすや、なく時間などを、しらべてください。
- ②虫をかうときに、ちゅういすることで、いちばんだいじなことをお話しします。
- ③虫のたいおんは、人げんとちがって、まわりのおんどによってかわるのです。
- ④だから、いれものが日光にあたってあたたまると、虫のからだもあたたまって、あるきまわったり、はねまわったりします。ところが、日光にあたらなくなると、きゅうにたいおんがさがって、もとにもどらなくなります。⑥そのために、よわったり、しんでしまったりします。
- ⑦そんなことにならないためには、虫のいれものを日光にあてないように、日かげにおくことです。

○虫をかうときにだいじなことは、なんばんの文にかいてありますか。

正答率 60%
 誤答例 2の文 3%
 3の文 10%
 4の文 12%
 5の文 12%
 6の文 3%

問題文〔3〕

- ①やす子さん、ぼくたちはうんどう会がちかづいたので、まいにちれんしゅうをしています。②ぼくたちは、つなひきとかけっこゆうぎをします。
- ③うんどう会は、10月8日で、日曜日ですからぜひきてください。
- ④みんなまっています。
- ⑤では、さようなら。

○このてがみで、いちばんだいじなことでている文は、なんばんの文ですか。

正答率 84%
 誤答例 2の文 8%

10月1日

田中すすむ

問題文〔4〕

①よしおさん、おてがみありがとうございます。②たんじょう日におまねきくださってうれしくおもいます。③ぼくも、ぜひいこうとおもってたのしみにしていたのです。④けれど12日のきみのたんじょう日には、学校に学げい会があるので、どうしてもいけません。⑤たいへんさんねんです。⑥正月になったら、また、いっしょにあそびましょう。⑦おじさん、おばさんによろしく。⑧さようなら。

○だいじなことのでているのは、なんばんの文ですか。

正答率 97%

誤答例 2の文 3%

問題文5

①夏休みもちかづきました。②夏休みには、みなさんは海へいくことがおおくるとおもいます。③海へ行っておよぐときは、つぎの2つのことをよくまもってください。④まず、うちの人か、うちの人がいってもいいというおとなの人と、いっしょにいくようにしましょう。⑤つぎに、海にはいるまえには、かならずたいそうしてからはいってください。⑥この2つのことをよくまもって、あぶないことのないように、夏休みをおくってください。

○海へ行っておよぐときのちゅういが、2つかいてあります。

なんばんとなんばんの文でしょう。

正答率 91%

誤答例1と3 3%

6と3 3%

6と4 3%

問題文〔6〕

①あしたのえんそくでは、でんしゃとバスにのります。②でんしゃやバスにのって、おもしろ半分に、まどから手や首をだして、たいへんなけがをすることが、少なくありません。③とくに、まがりかどでは、うしろのわは前のわよりもずっとうちがわをとおりますから、でんちゅうなどがちかくなり、いっそうきけんです。④まどからは、ぜったいに、手や首をだすことはやめましょう。⑤また、デッキの上も、たいへんきけんです。⑥デッキの上からふりおとされて、しんだりけがをしたりする人も、少なくありません。⑦のったら、デッキにいないで、かならず車の中にはいりましょう。⑧よくきをつけて、のりものによるけがをしないようにしましょう。

○えんそくで、のりものにのるときにきをつけることがかいてある文はどれとどれですか。

正答率 55%

誤答例4と6 12%

4と5 9%

2と6 9%

3と6 6%

1と4 3%

1と2 3%

6と7 3%

問題文〔 7 〕

あつくなりました。

どこの家でも水をたくさんつかいます。ちよ水池の水は、どんどんへってきています。

このままでは、水道は、あと1しゅうかんもしたら、でなくなるかもしれせん。

それなのに、べんきょうがはじまってから、水道のじゃ口があければなしになっていて、水がどんどん流れていることがあります。

水をつかったら、かならずせんをしっかりしめるようにしてください。おねがいます。

- 1 ちよ水池の水がどんどんへってきた。
 2 あと1しゅうかんもしたら、水がでなくなるかもしれない。
 3 水道の水が、どんどん流れればなしになっている。
 4 水をつかったら、かならずせんをする。

。上のようなはり紙があしあらいばにしてありました。このはり紙のことで、だいじなところはどこでしょう。

正答率 79%

誤答例 1 3%
 2 12%
 3 6%

問題文〔 8 〕

①うさぎは、どうぶつのなかでもよわいどうぶつです。

②うさぎには、かたいつのも、とがったきばもありません。

③山にいるうさぎは、ほかのつよいどうぶつに、いつもねらわれています。

④そんなときに、うさぎは、どのようにして、じぶんのからだをまもるのでしょうか。

⑤それには、うさぎの耳がたいへんやくだっています。⑥あの長いうさぎの耳は、とおくからちかづいてくるどうぶつの足音を、はやくききとることができるのです。

。「うさぎはどうしてじぶんをまもるか」をせつめいしている文をえらびなさい。

正答率 24%

誤答例 6の文 64%
 5の文 9%
 1と3の文 3%

Ⓐ 正答 5と6の文

問題文〔 9 〕

①みなさんは、どうぶつえんで、きりんを見たことがありますね。②また、ほんとうのきりんを見たことがなくても、え本やしゃしんなどで、あのきりんの長い首を見たことがあるでしょう。

③きりんは、大むかしから、やわらかいはっぱが大すきです。④やわらかいはっぱは、木の上のほうについています。⑤そこで、きりんは、いつも首をのぼして、高い木の上のやわらかいはっぱにとどここうしました。

。「きりんの首がどうして長くなったか」を書いてある文はどれですか。

正答率 3%

(3・4・5の文)
 誤答例 5と6 15%
 5 48%

⑥それで、長いあいだに、だんだん首が長くのびたのです。

4と5 9%

問題文〔10〕

- ①日本にいるどくへびは、まむしがおもです。
②どくのないへびも、たくさんいます。③どくのないへびにかまれても、しぬようなことはありません。
④ところが、どくへびにかまされると、からだじゅうにどくがまわるので、たいへんです。
⑤どくへびかどうかを見わけするには、どうしたらよいでしょうか。
⑥それには、へびの口をあけて、きばがあるかないかを見ることです。
⑦そとから見て、あたまが三角形をしているのはどくへびだといわれますが、それでは、はっきりしません。

。この文しょうで、「へびの見わけかた」をせつめいしているのは、なんばんの文でしょう。

正答率 70%

誤答例 5の文 6%

7の文 24%

(結果についての考察と、「段落についてのテスト」は紙数の関係上省略する)

5 指導の実際

(1) 単元名 説明文を読む

(2) 目標 ① 冒頭部分での問題意識をもとに、「祭り」ごとの要点がとらえられるようにする。

② 文や語句の連鎖関係に気づかせ、話題内容を考えながら読み通せるようにする。

(3) 指導計画..... 総時数8時間

① 事前テストをする..... 1時間

② 春の祭り..... 5時間

ア 冒頭部分を読み、話し合いによって、問題意識を喚起させる。(1)本時

イ 「問題」をふまえ、全文を読み通し、学習計画をたてる。(1)

ウ 「立春」「節分」の要点をとらえさせる。(1)

エ 「ひな祭り」「春分の日」「春祭り」の要点をとらえさせる。(1)

オ 文や語句の連鎖関係から、説明文の組み立てをしらべ、まとめをさせる。(1)

③ 「てびき」(P87)・文字に語句の練習..... 1時間

④ 評価をする。..... 1時間

(4) 本時の指導

① 題材名 春の祭り

② 本時の目標 題名とセンテンス①を読みとらせ、話題内容についての予想をたてさせると同時に、問題意識を持たせ、話し合いによって「問題提起の文」をつくらせる。

評

説明的文章の教材は物語的文章の教材とは異なって、学習に際して、児童が積極的に読もうとする意欲を起こさない場合が多い。学習指導にあたっては、まず、その文章に興味をもって積極的に読み進めることができるようにすることが必要である。

新学習指導要領の「総則の教育課程一般の7に児童の興味や関心を重んじ、自主的・自発的な学習をするように指導すること」とあるので、今後この面の実践が望まれるわけである。特に、国語科の指導方法についてはこのことを配慮する必要がある。

今まで説明文の読解指導というと、とかく形式面に目をむけがちで、段落のための段落指導、要点のための要点指導であって話題内容と遊離した技能中心の指導がなされ、児童にとって無味乾燥な読ませられるといった受身的な指導が多かった。話題内容をより確かなものにするために形式(技能)は重要なものとなることをわれわれは意識しなければならない。この点筆者は、児童が興味をもって読解学習をするために指導者が技能を重視すると同時に話題内容をたいせつにし、そのからみあいの上に立った読解指導をしたことは当然のことながらたいせつなことである。